

教育方針	地域社会や家庭と連携をとりながら、知・徳・体の調和のとれた高校教育を推進し、人格の形成と社会の担い手として必要な資質の向上を図る。	重点目標	生徒一人一人を大切にする教育の推進 ～自主自律と進取の精神を身に付けた 長高生の育成を目指して～
------	---	------	--

領域	評価項目	具体的目標	評価	目標の達成状況	次年度の改善方策
確かな学力	主体的に学習に取り組む姿勢の育成	考査前家庭学習時間1日平均2時間30分以上 A: 2時間30分以上 B: 2時間以上2時間30分未満 C: 1時間30分以上2時間未満 D: 1時間以上1時間30分未満 E: 1時間未満 考査前家庭学習時間1日平均2時間30分以上の生徒80%以上 A: 80%以上 B: 60~79% C: 40~59% D: 20~39% E: 20%未満	B	家庭学習時間調査結果は、第1回が1日平均165分(2時間30分以上の生徒58%)、第2回が164分(同48%)、第3回が172分(同52%)、第4回が190分(同70%)で、ほぼ目標を達成しているが、個人差がある。	学習意欲の高い生徒には、学習時間の増加とともに、学習の質を高める指導に力を入れて、より成果を実感させる。一方、学習意欲の低い生徒には、事前学習会や事後指導、個別指導等を工夫・改善しながら行い、苦手意識の克服と学習意欲の向上に根気強く取り組んでいく。ともに進路実現につながる主体的な学習態度を育成していく。
		授業に満足している生徒100% (授業評価アンケート) A: 90~100ポイント B: 80~89 C: 60~79 D: 50~59 E: 50ポイント未満	A	授業評価アンケート結果は、第1回が平均91.6ポイント、第2回が同93.4ポイントで、1.8ポイント向上し、高評価を維持した。	生徒の実態及び能力の把握に努め、校内外の授業研修や教育機器を積極的に効果的に活用しながら、生徒にとって「よく分かる楽しい授業」が実践できるように、工夫・改善を図っていく。
	一人1台端末等ICTを活用した教科指導力の向上	A: 90~100ポイント B: 80~89 C: 60~79 D: 50~59 E: 50ポイント未満	B	授業評価アンケート結果のうち、ICT機器活用については、第1回が平均85.3ポイント、第2回が同89.3ポイントで、4ポイント向上したものの他の項目に比べて工夫の余地がある。	一人1台端末等のICT機器を積極的に効果的に活用できるように、工夫・改善を図っていく。ただし、学習の本質を見失わないように心掛ける。
進路実現	進路意識の向上	<u>進路意識が高まった生徒100%</u> (進路ガイダンス後アンケート) A: 90%以上 B: 80~89% C: 60~79% D: 50~59% E: 50%未満	A	2学期の進路ガイダンスにおいて、その職業や分野(学部)についてよく理解できたかの問いに、92.7%の生徒がよく理解できたと回答し、「自分の進路に対して、この1年でよく考えるようになったか」について、全学年平均が4.5であった。	今年は、1年生では生徒の進路希望状況を反映させ、新たに水族館での職場見学を導入した。今後も効果的な進路ガイダンスを計画し、意識啓発を図りたい。
	進路目標の実現	進学決定率100%、就職内定率100% A: 90%以上 B: 80~89% C: 60~79% D: 50~59% E: 50%未満	A	12月末現在で、進学決定率93.3%、就職内定率100%を達成できた。	補習やキャリアデザインの時間を活用し、早期対応で生徒の希望実現を目指したい。
		希望する四年制大学への進学達成率100% A: 90%以上 B: 80~89% C: 60~79% D: 50~59% E: 50%未満	A	12月末現在で、四年制大学希望者5名中5名が希望の大学に合格した。愛媛大学1名、高知工科大学1名、松山大学1名、松山東雲女子大学2名など難易度の高い大学も厚い指導で合格へ導けた。	進学メンターシステムを効果的に活用し、早い段階で目標を設定し、個別に支援したい。
環境全・健全・安心・安全・心豊かな教育	交通安全意識や交通マナーの向上	交通事故0件 A: 0件 B: 1 C: 1件 D: 2件 E: 3件以上	A	R5 1月現在、事故の発生はない。	本校生徒の自転車を利用しての通学は少数ではあるが、徒歩を利用しての通学者を含めて今後も交通安全意識の高いレベルでの維持を図ってきたい。
		交通マナー(列車通学・自転車通学など)を遵守する生徒100% (学校評価アンケート) A: 4.5~5.0 B: 4.0~4.4 C: 3.0~3.9 D: 2.0~2.9 E: 2.0未満	A	生徒の自己評価値(4.8)であった。	生徒の自己評価値は高いが現状に甘んじることなく対応していききたい。歩行中のスマートフォン操作やイヤホンの使用等危険性の高い行為については注意喚起を継続して行っていききたい。

※ 評価は5段階(A: 十分な成果があった B: かなりの成果があった C: 一応の成果があった D: あまり成果がなかった E: 成果がなかった)とする。

領域	評価項目	具体的目標	評価	目標の達成状況	次年度の改善方針
安全・安心な教育環境	特別活動の充実	学校行事の満足度100% (学校評価アンケート) A:4.5~5.0 B:4.0~4.4 C:3.0~3.9 D:2.0~2.9 E:2.0未満	A	生徒の自己評価値(4.7)であった。	生徒の満足度は高いが、内容や効率性、実施の意義を含めて改善を図っていききたい。
		県大会以上出場部80%以上 A:80%以上 B:70~79% C:60~69% D:50~59% E:50%未満	B	体育部(4部)の南予予選を通過しての県大会出場部は(3部)であった。その中でも陸上部は、県予選も通過し四国大会へも出場した。(10月:四国新人大会)	所属生徒は年々減少しているがよく健闘をしている。個人種目の多い種目特性を生かし今後も個に寄り添い対応していききたい。
	生活習慣の確立と規範意識の向上	欠席0の生徒数70%以上 A:70%以上 B:60~69% C:40~59% D:30~39% E:30%未満	D	2学期末時点で皆勤者は37人(37/112人)皆勤率は、33%であった。	昨年度(27.6%)より向上傾向ではあるが、劇的な変化は近年みられない。(一昨年度は31.7%)生徒個々に通学に対する障壁は異なるが、遅刻・欠席数を含め減少させ皆勤者を増加できるように個々に寄り添い励まし援助していききたい。
延べ遅刻者数月平均20以下 A:20人以下 B:21~30人 C:31~40人 D: — E:40人以上		E	月平均42.9人/月(11月末時点)1年生を中心に遅刻者が多い状況を大きく改善できなかった。	単身生活者(16人)を中心に1年生に遅刻が多い。しかし、遅れる生徒は特定され個々に抱えている状況も異なる。不規則な生活にならないように学校生活は元より下校後の生活にも注意喚起を継続していききたい。	
高校生らしい身だしなみや元気な挨拶ができる生徒100% (身だしなみ指導合格率) A:80%以上 B:60~79% C:50~59% D:30~49% E:30%未満		B	R5 1月実施時点での合格率は男子(57.6%)、女子(68.1%)平均合格率(62.9%)であった。	「校則のあり方」についても全国的に議論が行われ、本校でも検討している最中である。生徒にとって学校生活に集中できる内容を目指し整備を進めたい。また、新たなルールになってもしっかりと理解を深めて行動できるように促していききたい。	
健全育成	読書の充実	生徒一人あたりの図書貸出冊数8冊以上 A:8冊以上 B:6~7冊 C:4~5冊 D:2~3冊 E:1冊以下	A	生徒一人あたりの図書貸出冊数は、12月末までで12.6冊であった。新入生の図書館活用率が高かったことが要因である。	様々なジャンルの本を手にもらえるように授業との関連を図る。朝読書の推進と並行し、図書委員会の活動に工夫を加え、図書館利用率の向上を図る。
	いじめを許さない望ましい集団づくり	学校が楽しいと感じている生徒100% (学校評価アンケート) A:4.5~5.0 B:4.0~4.4 C:3.0~3.9 D:2.0~2.9 E:2.0未満	B	学校評価アンケートは評定が4.3であった。昨年度の4.2から微増している。また、毎月実施している健康観察アンケートでの「学校が楽しいですか」の質問に対して、1年生の90%以上が、「楽しい」「やや楽しい」と感じているなど、学校生活を前向きに送っている生徒が増えている。	担任や学年主任を中心に、面談や「長高いじめに関するアンケート」等も活用して、生徒の状況の把握を一層進める。それが些細な内容であっても生徒に寄り添い、話を聞く姿勢を生徒に見せていく。
	地域貢献につながる活動の充実	地域におけるボランティア活動参加80%以上 (学校評価アンケート) A:80%以上 B:70~79% C:60~69% D:50~59% E:50%未満	A	学校評価アンケートでは、生徒の85%が、ボランティア活動に対して前向きな回答をしている。また、ボランティア活動へは延べ77名が参加した。(97%、回答者79名)	今年度は特に、長浜に住む県外生の参加が多く、日頃サポートをしてくれている地元の力になりたいという思いを持ってくれた。今後は、サポートを受けている長浜高校の生徒として、参加したいという思いを持ってもらえるように働き掛けをしたい。
特色ある学校づくり	水族館活動の充実	来館者の満足度90%以上 A:90%以上 B:70~89% C:50~69% D:30~49% E:30%未満	A	新型コロナウイルス感染症予防対策を工夫しながら、毎月実施した。来館者満足度の平均値が93.7で、昨年同様高い評価をいただいた。	現在部員数が増加傾向にあり、今後水槽の不足や活動の制限などが予想される。水族館のリニューアルも含めて、部員の知恵と工夫を結集し、新たな活動を模索したい。
	地域の活性化や学校の魅力化に向けた活動の推進	地域の活性化に向けた取組参加者延べ人数 A:30人以上 B:20~29人 C:10~19人 D:5~9人 E:5人以下	A	地域の清掃活動や祭り、子どものイベントへの参加等に延べ99人が参加。地歴科目「地域研究」では13人が地域活性化に関する研究を行い、1年生58名は総合的な探究の時間において「地域探究プログラム」に参加し、地域の課題解決に向けた取組を行っている。	より充実したものとするために地域の課題解決にあたって、継続した取組を行っていく。地域活性化につながるボランティア活動においては在学中に全ての生徒が一度は主体的に参加できるよう意識啓発を行う。
		伊予長浜豊年踊りの継承		A	部員は兼部の生徒のみであるが、積極的に練習に取り組んだ。長高フェスティバルで披露することができた。

※ 評価は5段階(A:十分な成果があった B:かなりの成果があった C:一応の成果があった D:あまり成果がなかった E:成果がなかった)とする。

領域	評価項目	具体的目標	評価	目標の達成状況	次年度の改善方策
特色ある学校づくり	情報の積極的な公開	ホームページアクセス数1日平均350件以上 A: 350以上 B: 300以上 C: 250以上 D: 200以上 E: 200未満	A	4月1日～12月18日現在までの1日平均のアクセス数は517であり、目標値を大きく上まわっている。	引き続き、掲載内容を工夫し、本校の魅力発信に努める。
	PTA活動の活性化	保護者のPTA総会参加率60%以上 A: 60%以上 B: 50～59% C: 40～49% D: 30～39% E: 30%未満	C	3年ぶりの対面での開催となり、総会の参加率は43.8%であった。新型コロナウイルスの影響もあるだろうが、今年度県外や遠隔地からの入学生が増え、参加が実質的に難しい家庭が増えたことも原因の一つと考えられる。	県外・遠隔地の保護者のPTA総会の参加の在り方について、オンラインでの参加など、来年度の実施に向けて検討を重ねる。
業務の改善		ICT等の活用や業務内容見直しにより、3項目以上の業務軽減や削減を図る A: 3項目以上 B: 2項目 C: 1項目 D: できなかった E: 増加した	A	一人1台端末などICTを有効に活用し業務効率化に努めた。特に、EILISを活用し、問題配布や回収、採点の時間を短縮した。また、保護者面談や家庭訪問を一部オンラインで実施したり、職員会議開催日は短縮授業とし定時終了とした。就職及び入学試験面接の練習では、3年担任だけではなく、管理職を含め他の教員も実施した。さらに、管理職が率先して職員同士がコミュニケーションを取りやすい雰囲気作りに努め、風通しの良い職場づくりを行った。	引き続き、ICT機器の有効な活用について研修を重ねる。また、他校や他県の取組事例も参考にし、各課、各学年、各教科において課題を洗い出し、今後の学校行事や業務内容について一層の軽減や削減に取り組む。
		時間外勤務時間を3%以上削減する A: 3%以上 B: 2～3%未満 C: 2%未満 D: 変わらなかった E: 増加した	B	4～12月平均で前年度比2.7%減少していた。様々な業務で、一部の教員や時期的に差はあったものの、先生方の意識改革と管理職からのこまめな声掛け等により減少したものと考えられる。	ICT機器等の効果的な活用や各課、各学年、各教科において更なる業務内容の見直しを行い、定時退勤の意識を徹底していく。

※ 評価は5段階(A:十分な成果があった B:かなりの成果があった C:一応の成果があった D:あまり成果がなかった E:成果がなかった)とする。